



OLYMPUS

35ED

with D.ZUIKO F2.8 f=38_{mm}

●使用説明書●



お買上げありがとうございます。

オリンパス 35ED は、使い易さに徹した電子シャッター付、35ミリコンパクトカメラです。セルフタイマーも小さなボディに組込まれました。シューにフラッシュ装置を取付けると自動的にフラッシュマチック撮影に切り換わります。また長時間露出が可能ですので、夜景なども難なくきれいに写せます。

傑作を写すには、まず、カメラの特長を良く知ることが先決です。撮影に入る前にこの説明書をよく読み、早く自分のものにしてください。

〈使いかたダイジェスト〉

1 水銀電池を正しく入れます。

水銀電池が正しく入っていると、リリースボタンを軽く押した時、カメラ上部の黄ランプがつかます。
(水銀電池は一年でとりかえるようにしましょう)

2 フィルムを入れます。

空写しするとき巻上げをしてリリースボタンが押せなかったら、水銀電池が詰められていないか、正しく入っていないかです。

3 フィルム感度を合わせます。

レンズの囲りにあるフィルム感度ダイヤルをまわして、使用するフィルム感度を感度窓に出してください。

4 ガイドナンバーをセットします。

あらかじめ使用するフラッシュ装置に合わせてセットしておく便利です。

5 ピントを合わせます。

距離環をまわしてファインダー内の中心部二重像を合致させます。

6 シャッターを切ります。

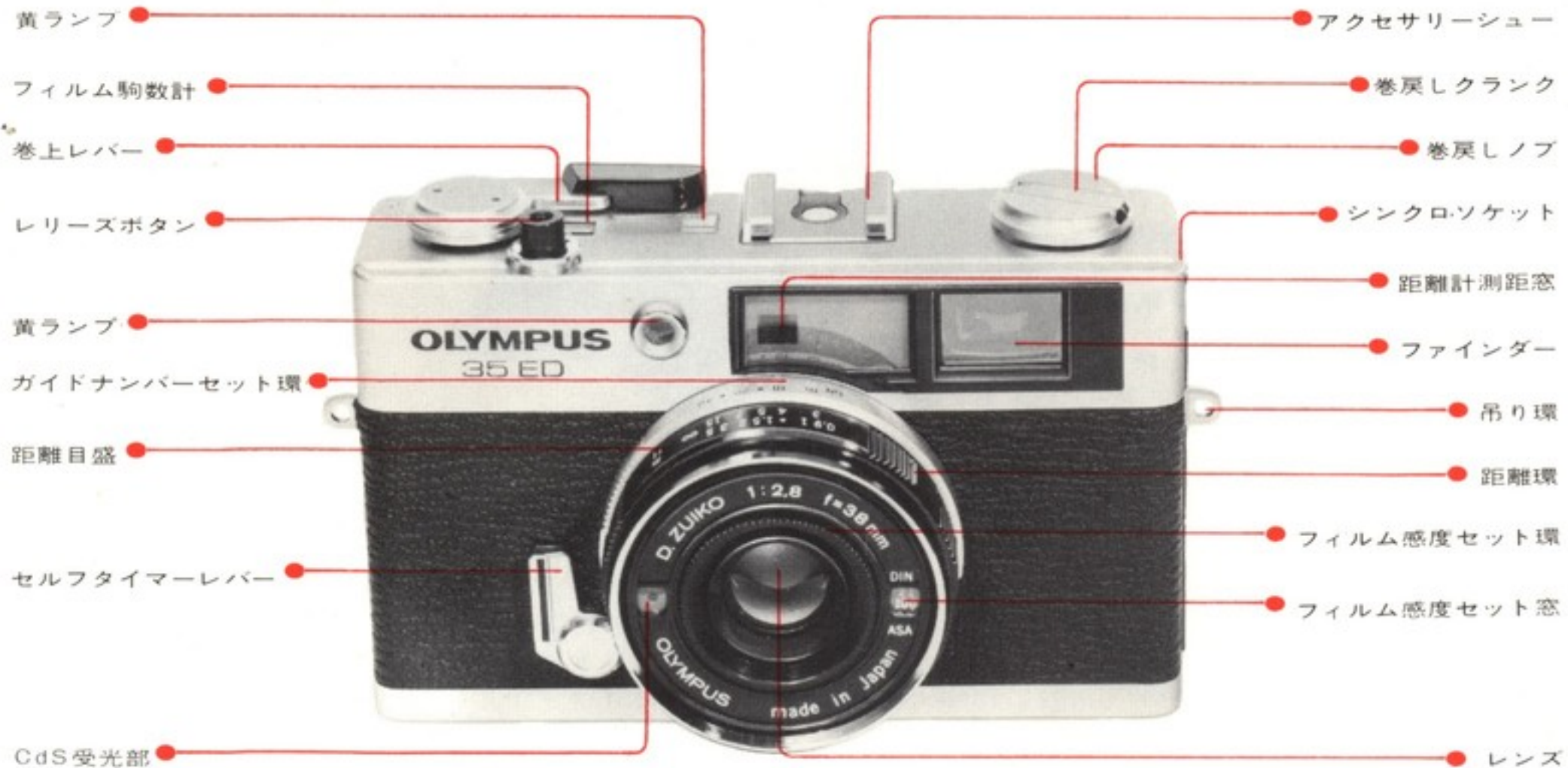
- a) EE 撮影 → レリーズボタンを押すだけでOKです。
- b) フラッシュ撮影 → フラッシュ装置を取付けてEE撮影と同じようにレリーズボタンを押すだけです。
- c) セルフタイマー撮影 → セルフタイマーレバーをセットしてからレリーズボタンを押します。

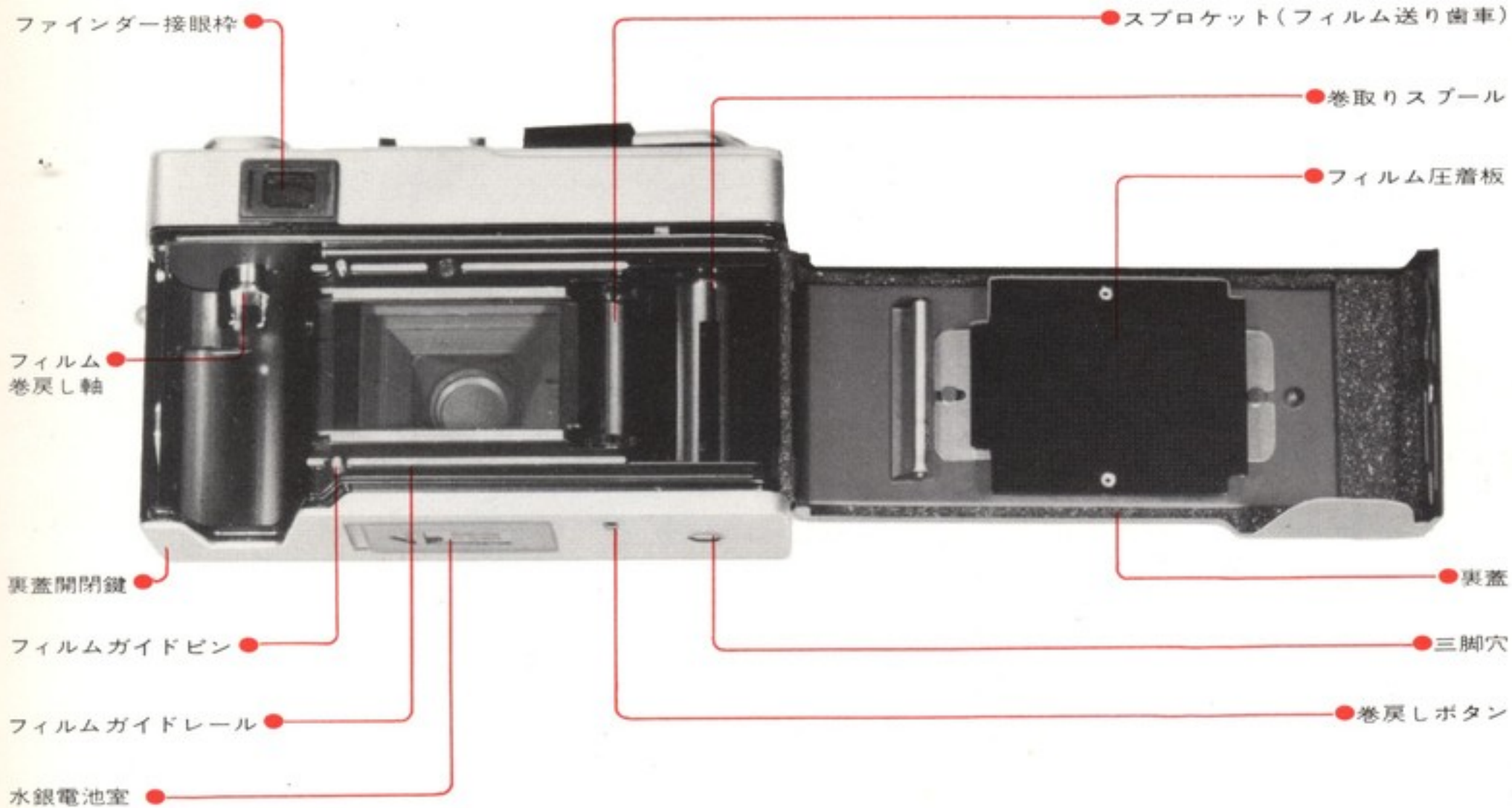


〈目次〉

● 使いかたダイジェスト	1	● ファインダー	19
● 各部の名称	3	● ピントの合わせかた	20
● おもな性能	5	● カメラの構えかた	21
● 水銀電池室	6	● フィルムの巻戻しかた	22
● 撮影の基本手順	7	● フラッシュ撮影のしかた	23
● フィルムの入れかた	11	● セルフタイマーの使いかた	25
● フィルム感度セット環	15	● カメラ保管上の注意	26
● フィルム巻上レバー／フィルム駒数計	16	● アクセサリー	27
● 露出／黄ランプ	17	● オリンパス製品紹介	29

● 各部の名称





● おもな性能

画面サイズ：24×36mm (35ミリサイズ)

レンズ：D. ズイコーF2.8 f=38mm (3群4枚)

シャッター：セイコーESF-B電子シャッター

シャッタースピード：(プログラム式EE) 4秒～1/800秒、(フラッシュ撮影時) 1/30秒

シンクロ：X接点

ガイドナンバー目盛：10～40(m)、32～130(ft)、フラッシュマチックシステム

ファインダー：ブライトフレームファインダー0.55倍、バララックス(視差)補正マーク付、バッテリーチェッカー兼シャッター作動表示黄ランプ点灯、フラッシュマチック撮影表示緑ランプ点灯

フィルム装填：ELシステム(イージー・ローディング)

フィルム巻上：レバー式ワンストローク巻上、予備引出角35°、巻上角135°、小さざみ巻上可能、二重巻上防止、二重露出防止

フィルム駒数計：順算式、自動復元

フィルム巻戻し：クランク式、巻戻しボタンセット式

ピント調節：二重像合致式一眼連動距離計、回転ヘリコイド、距離目盛 0.9m (3ft)～∞m(∞ft)

フラッシュ調節：フラッシュ装置取付けにより自動的にフラッシュマチックシステムに切換

受光部：ポイントアイ、CdS使用

電源：水銀電池(JIS・HM-N型) 1.4V 2個使用

EE可能範囲：EV1(4秒F2.8)～EV17(1/800秒F13)(ASA100)

フィルム感度目盛：ASA25～800、DIN15～30

裏蓋開閉：蝶番式

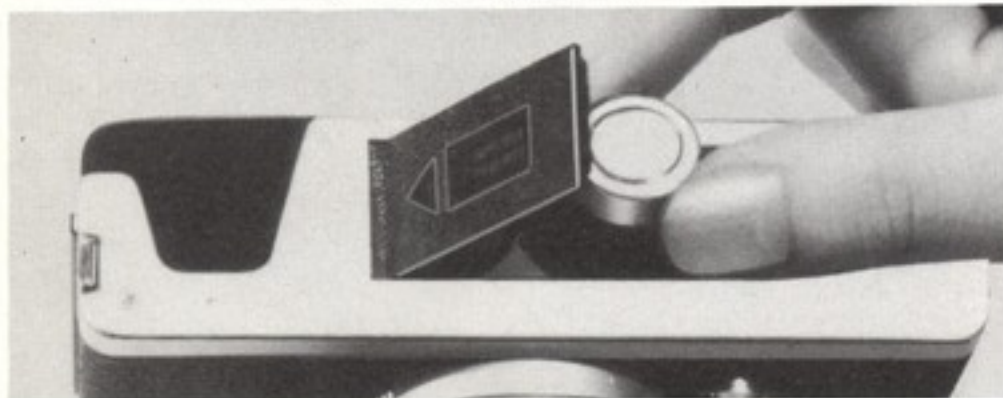
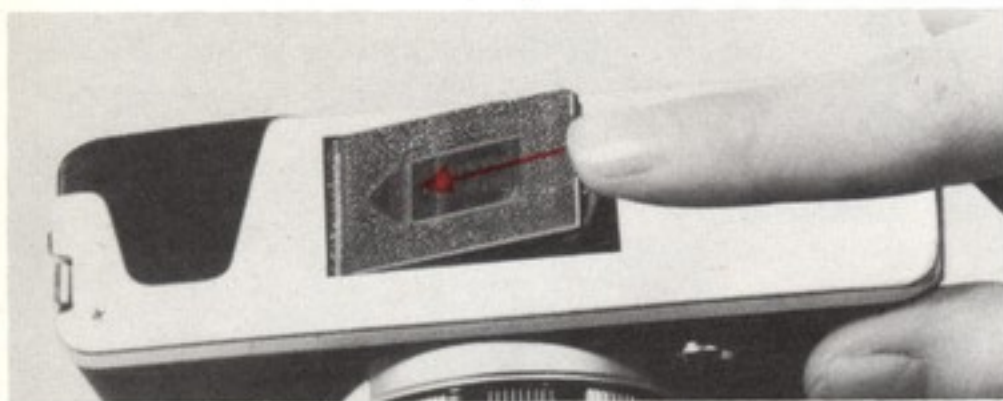
アクセサリシュー：コードレス接点付

セルフタイマー：レバー式85°、約10秒

フィルター径：43.5mm ねじ込み式

大きさ・重量：114(巾)×71(高)×51(厚)mm、415g

● 水銀電池室



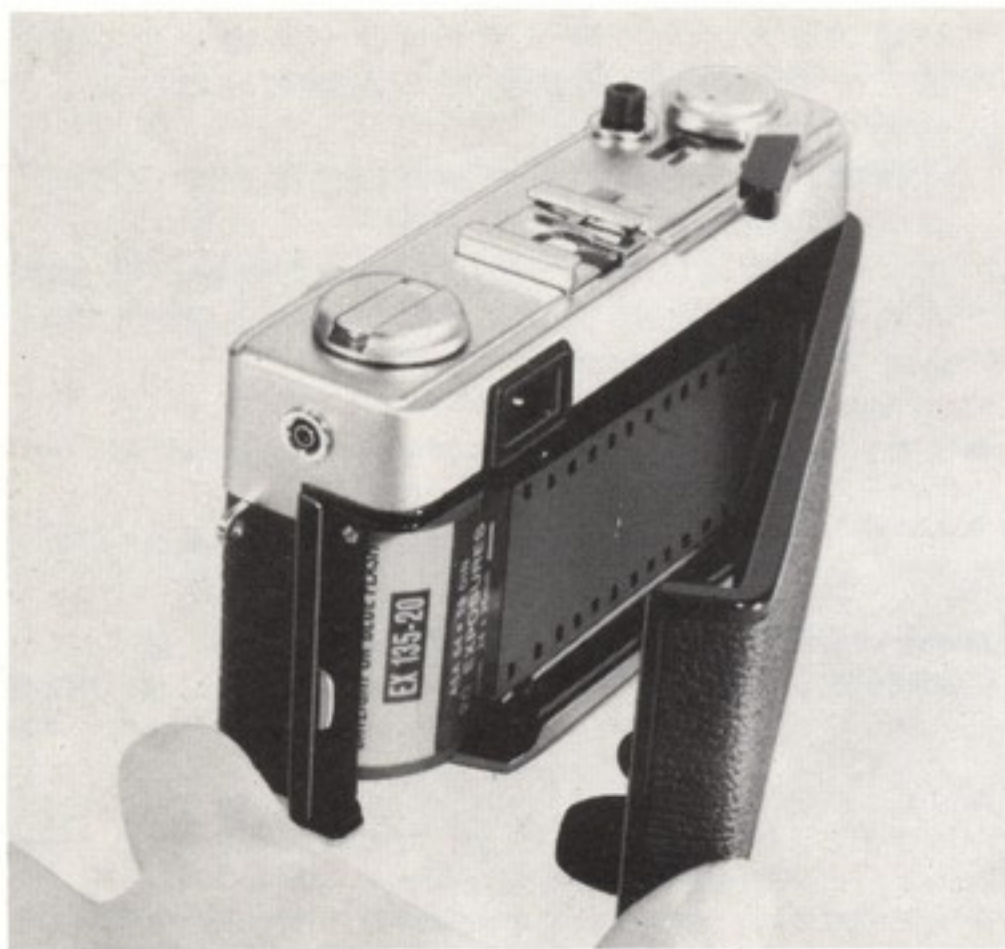
水銀電池はカメラの電子シャッターを働かせる重要な電源です。カメラ底部にある水銀電池室に正しく入れてください。

1. 水銀電池室の蓋に爪をかけ矢印方向にすべらせ、つまみを開きます。
2. 次に水銀電池(HM-N型・1.4V)2個を、電池室の表示に従って正しく入れて、蓋を元通りに押し込んで閉じてください。

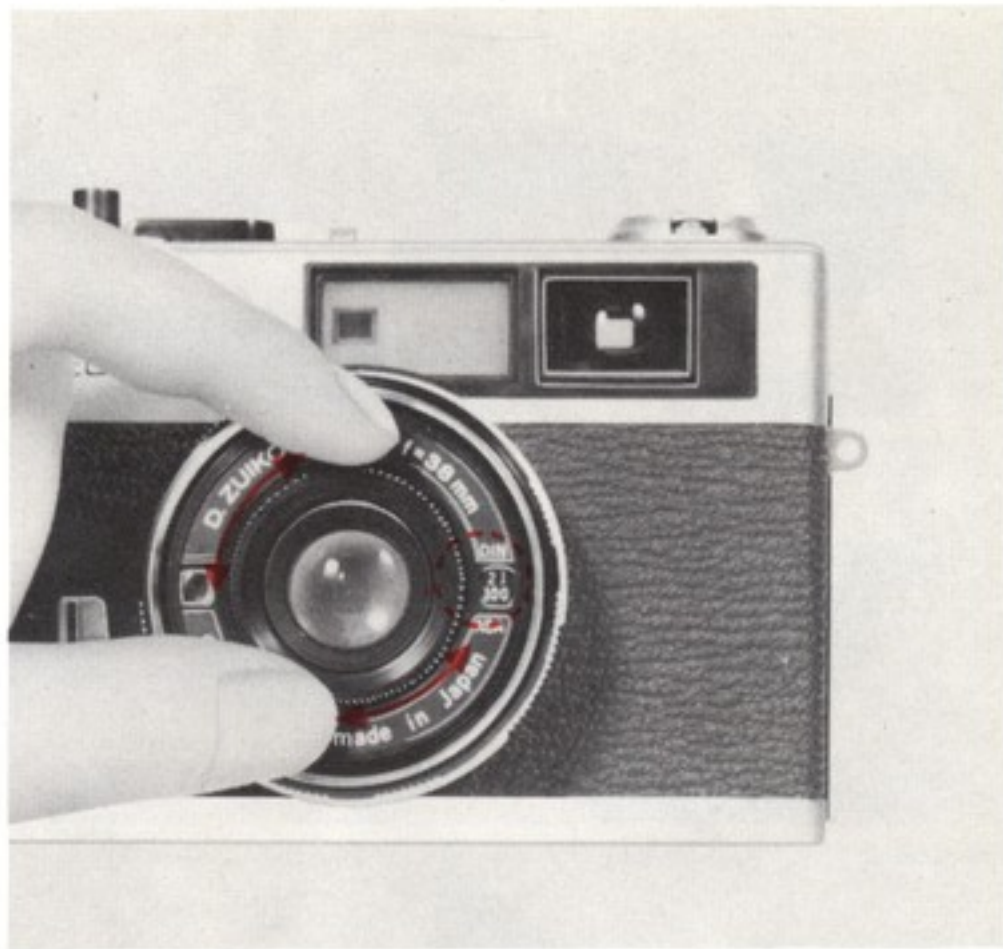
〈注意事項〉

- 電池を入れるときには、電池の表面を乾燥した布でよくふいてから入れてください。
- 水銀電池を入れ忘れたり、正しく入れてなかったり、電池が消耗してしまっている場合は、リリースロックがかかりシャッターが切れません。
- 水銀電池は、寿命が切れると性能が一時に落ち、電子シャッターが正しく働かなくなります。寿命の有無は、カメラ上部の黄ランプがバッテリーチェッカーの役目をはたしているのですぐわかります。
- 撮影の前には、必ずリリースボタンを押して黄ランプが点灯することを確認して下さい。また長期の旅行などには、予備のスペア電池を用意してください。
- 一般に寿命は、普通使っていれば1年位、特に使用回数の多い場合は半年位です。その時期がきたら新しい電池と交換するよう心掛けて下さい。また長期間使用しないときは、電池をカメラから取りだして保管してください。
- 水銀電池は、JIS HM-N型 1.4V (ナショナルマロリーM-INS、マロリーRM-640) を2個使用します。
- われわれの周囲から水銀汚染をなくすため、水銀電池を取換えるときは、使用済の水銀電池をカメラ店もしくは水銀電池販売店に持参し、現品と引換えで新しいものをお求めください。

● 撮影の基本手順



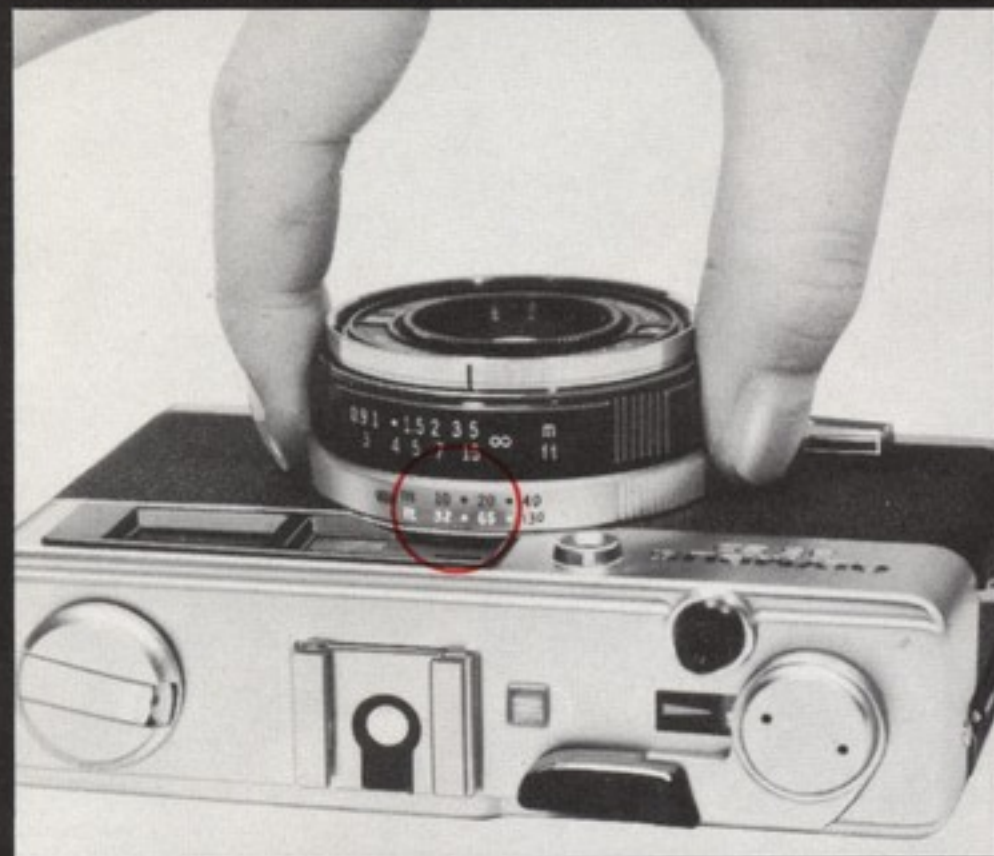
1 フィルムを入れます。(11頁参照)



2 フィルム感度をセットします。(15頁参照)

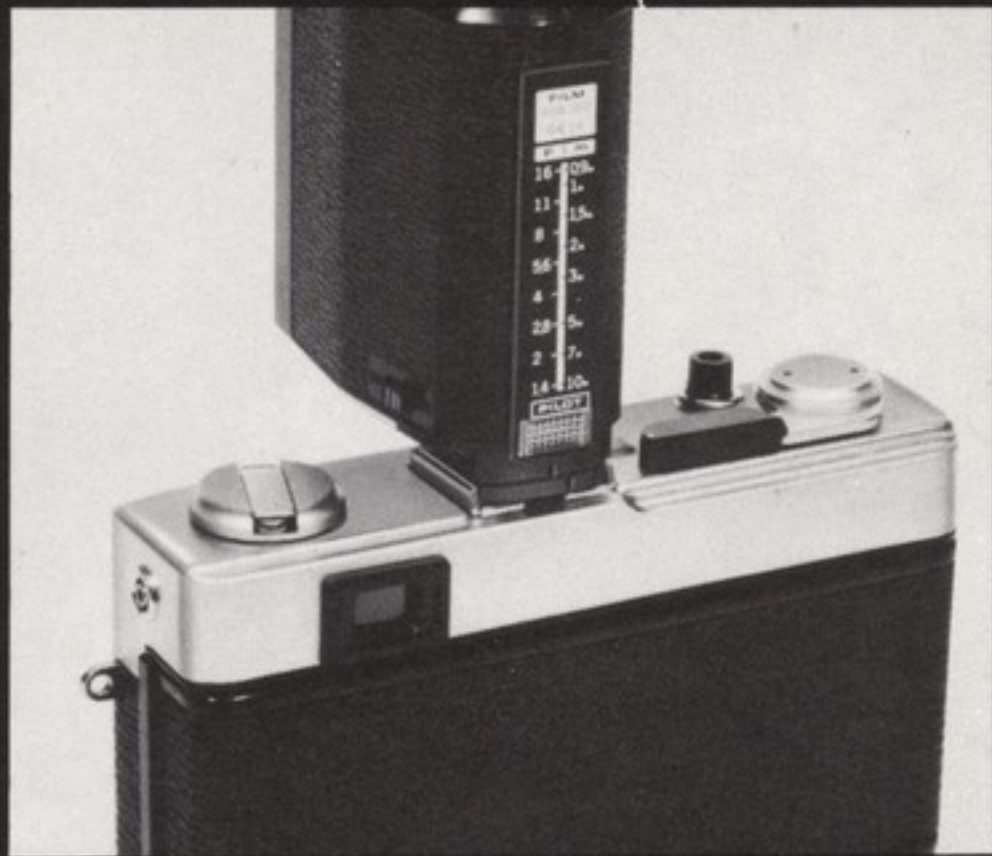
〈すぐフラッシュ撮影ができる準備をあらかじめしておきましょう〉

フラッシュ撮影の場合（23頁参照）

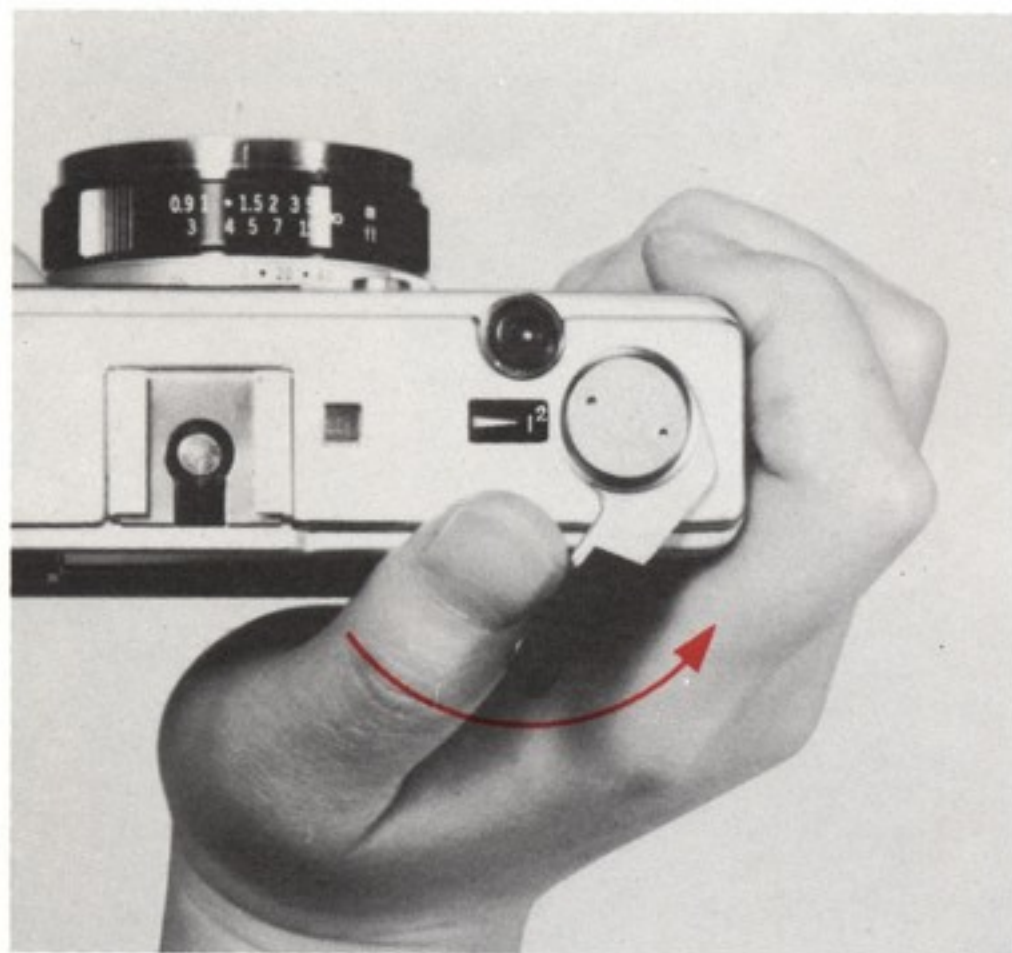


(1) ガイドナンバーを合わせます。

- あらかじめ使用するフラッシュ装置に合わせてガイドナンバーをセットしておくとう便利です。
- フラッシュ撮影をまったくしない場合、ガイドナンバーはどこに合っても構いません。



(2) フラッシュ装置を取付けます。



3 フィルムを巻上げます。(16頁参照)

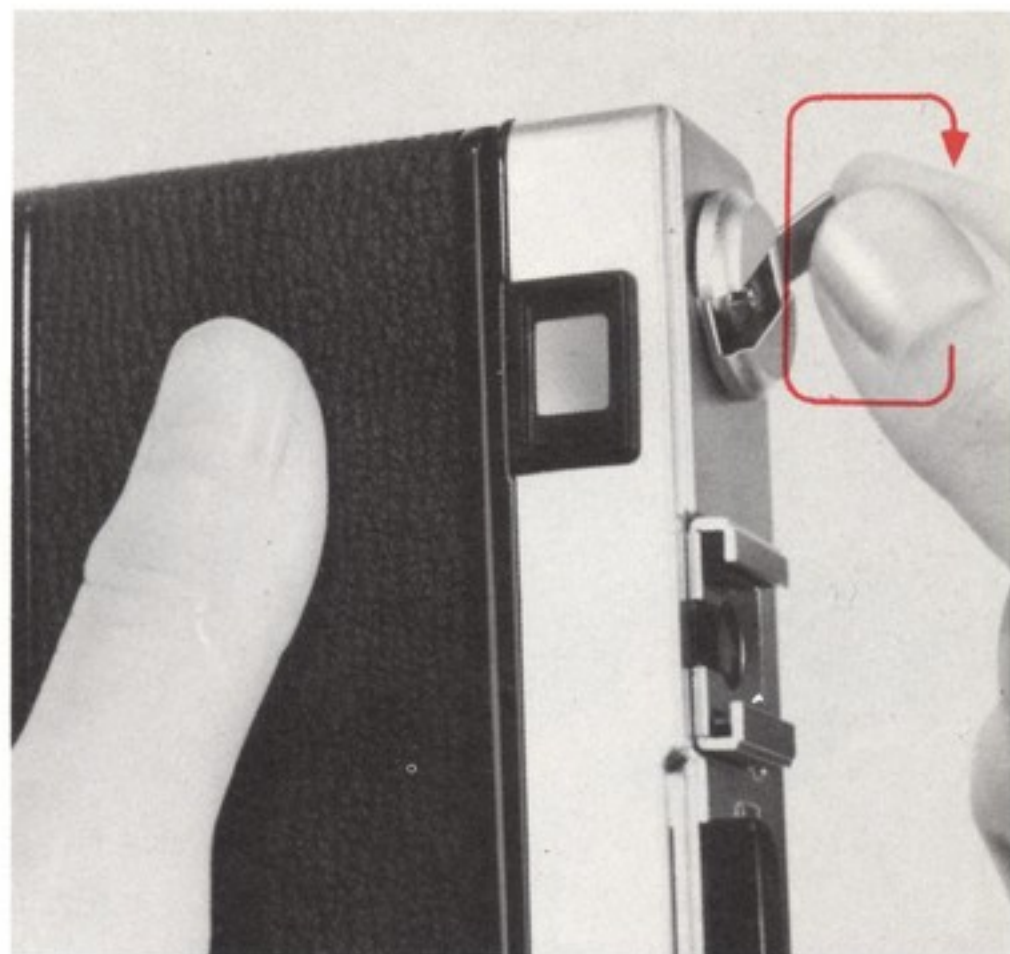


4 構図を決めて、ピントを合わせます。(20頁参照)



5 カメラをしっかり構え、レリーズボタンを静かに押します。(21頁参照)

黄ランプが点灯してシャッターが切れます。(17頁参照)



6 フィルム全部の撮影が終わったら、フィルムを巻戻します。(22頁参照)

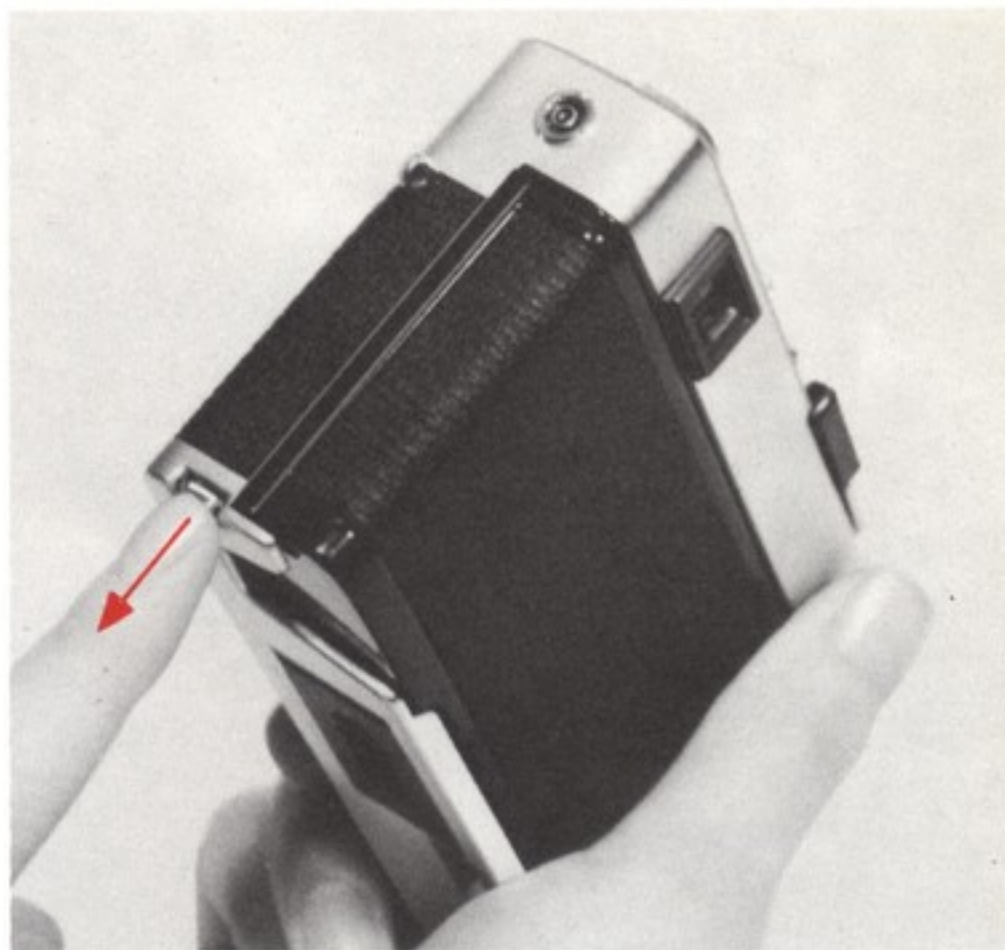
● フィルムの入れかた

フィルムは、一般の35ミリパトローネ入りフィルム（12枚／20枚／36枚）を使います。

フィルムは、イージー・ローディングの採用により、確実にしかも簡単に入れられます。巻取りスプールの溝（5つありますが差込みやすい所ならどこでも結構です）に、フィルムの先端を差込むだけで、もうフィルムの先がはずれるといった失敗はありません。

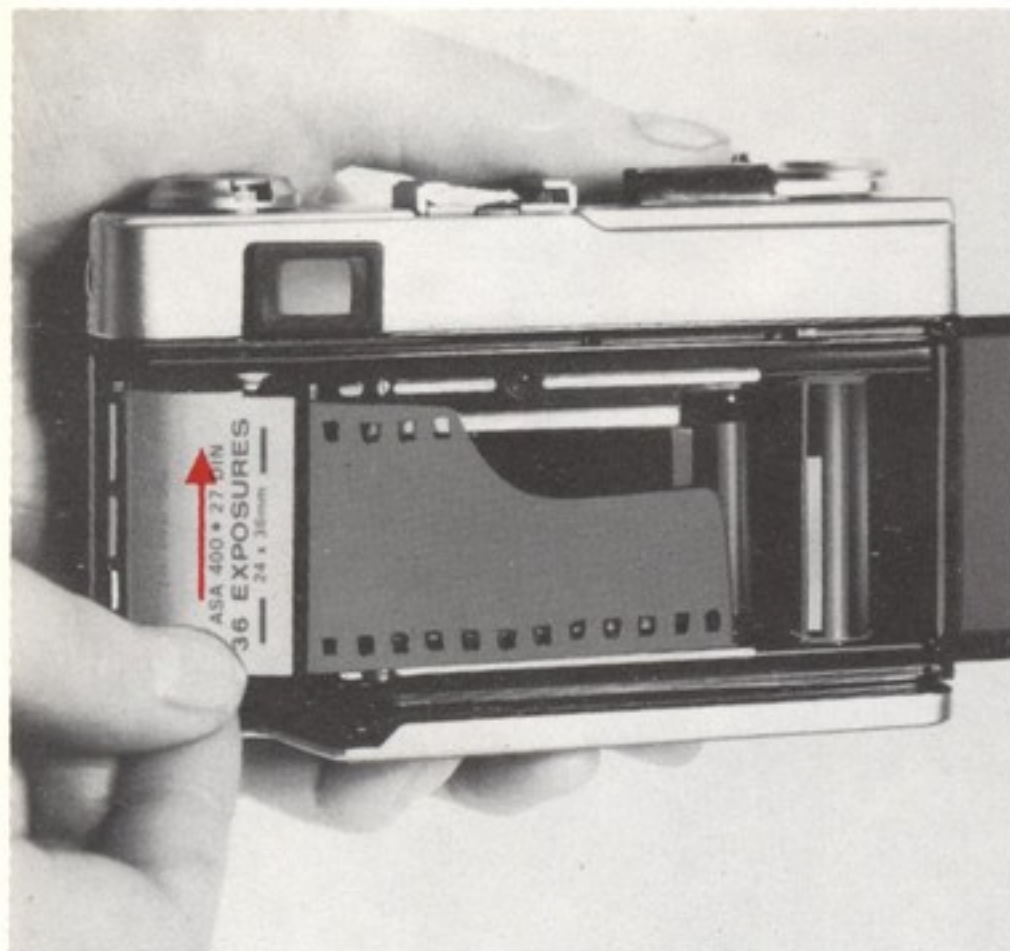


フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行うようにして下さい。



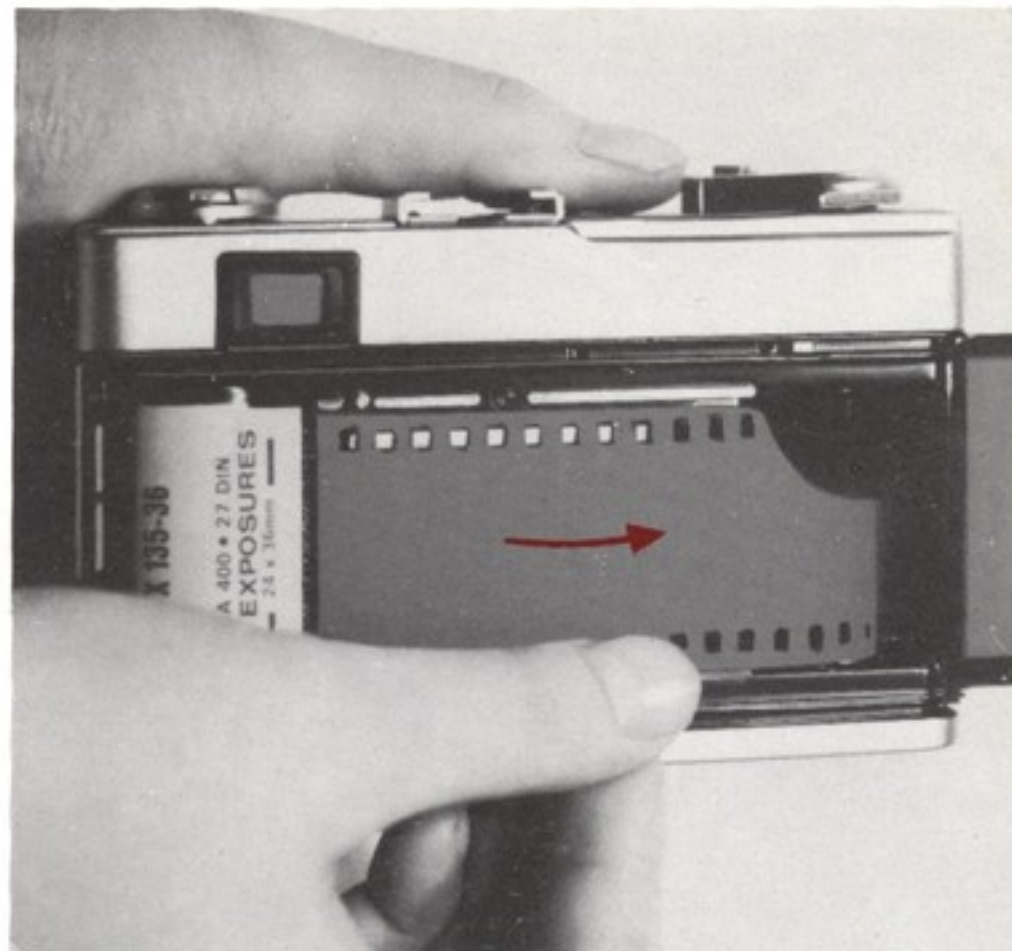
1 裏蓋をあけます。

カメラの横、下部にある裏蓋開閉鍵を下に引くと裏蓋が自動的にあきます。



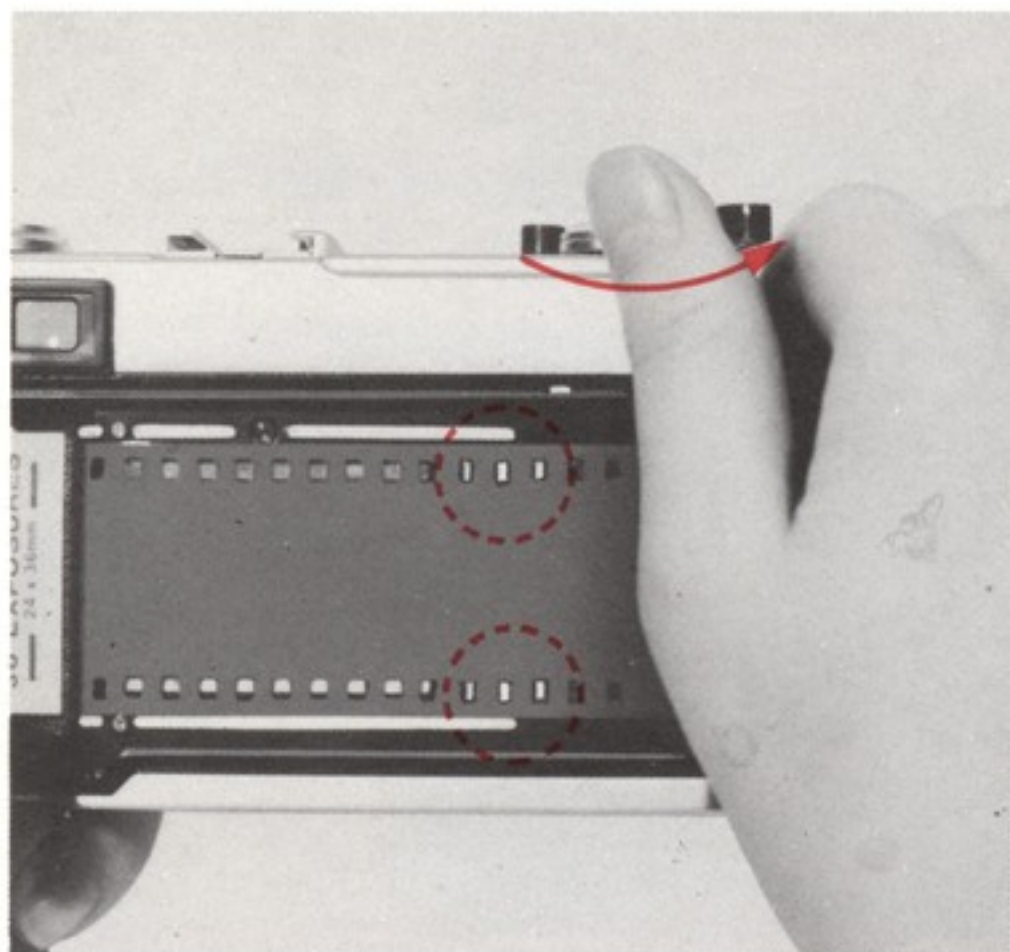
2 フィルムを入れます。

フィルムカートリッジをフィルム室に納めます。カートリッジがフィルム室にすっぽり納まらないときは、巻戻しノブを左右に少し回しながらカートリッジを押し込むと、楽にカチリと入ります。



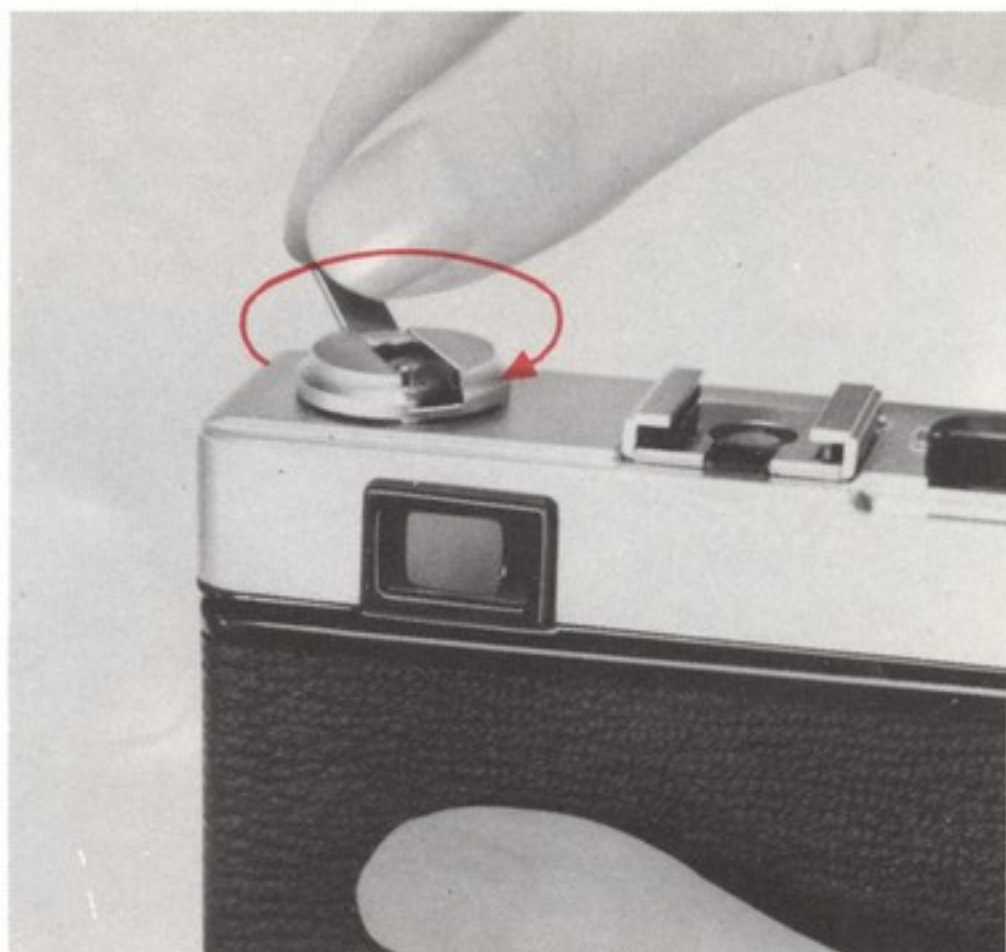
3 フィルムの先を差込みます。

右手でフィルムの手前を持って少し引出し、その先端を巻取りスプールの溝の回転方向に差込みます。このときフィルムが傾かずガイドレールの上に正しく納まるようにします。



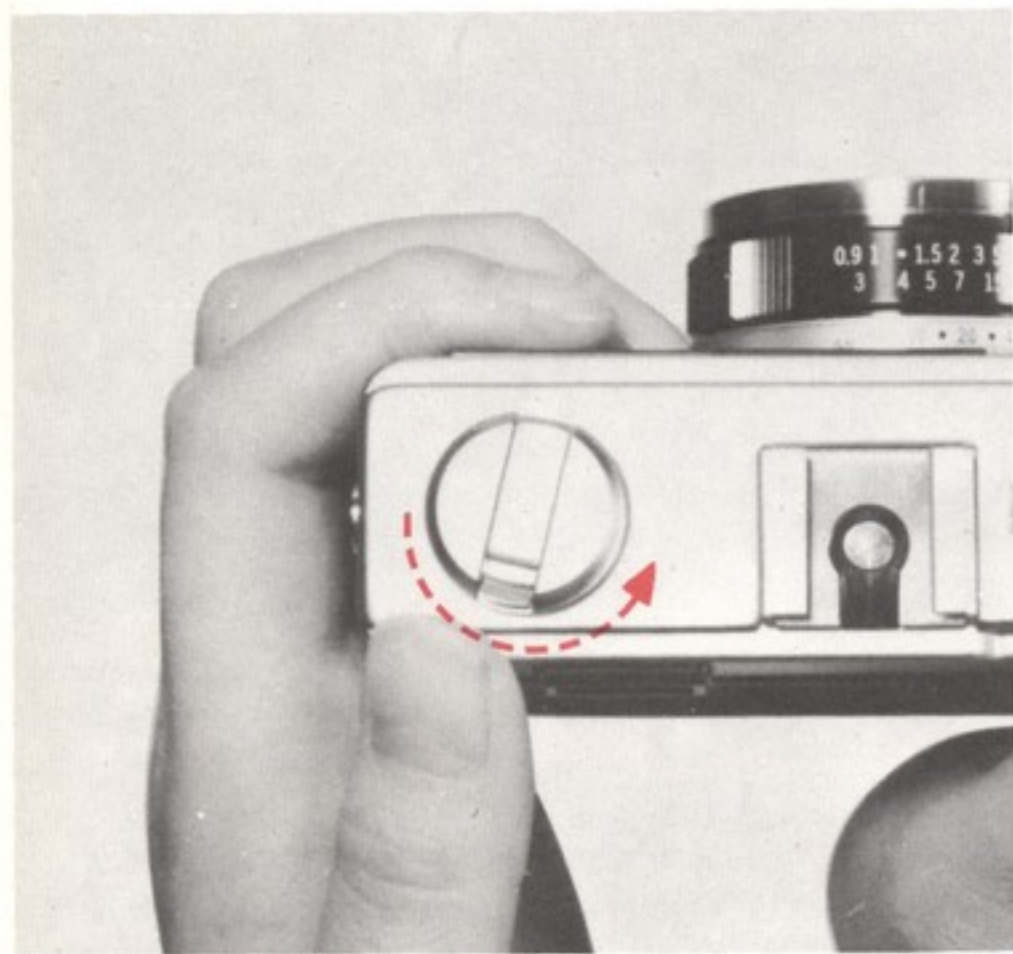
4 フィルムを巻上げます。

次に巻上レバーでフィルムを巻上げ、パーフォレーション(穴)をスプロケットの歯にかみ合わせ、確実に巻取ります。



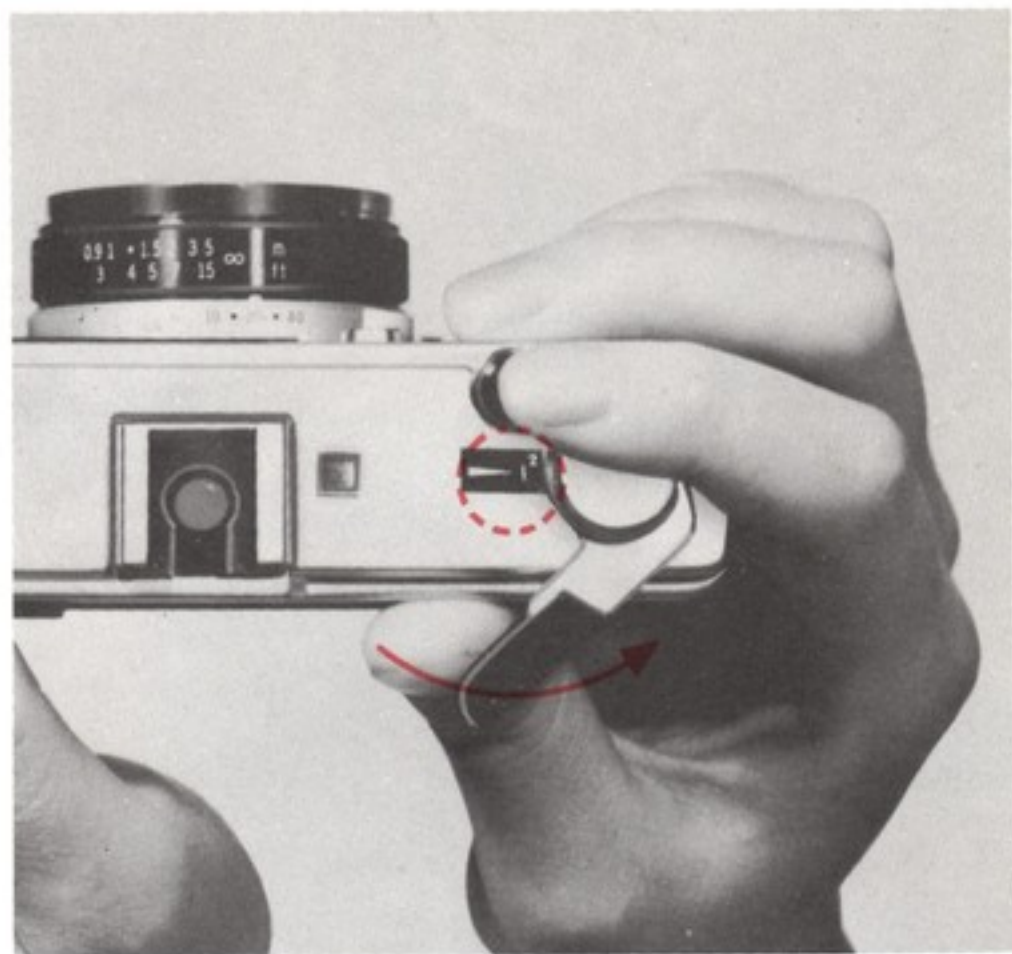
5 裏蓋を閉じて、フィルムのたるみをとります。

フィルムが外側のガイドレールの中に正しく入り、パーフォレーションがスプロケットの歯にしっかりかかっていることを確認してから、裏蓋を静かに押していくとカチリと閉じます。ここで念のために巻戻しクランクを起し、ノブが重く感じるまで軽く矢印の方向に回して、フィルムのたるみをとっておきます。



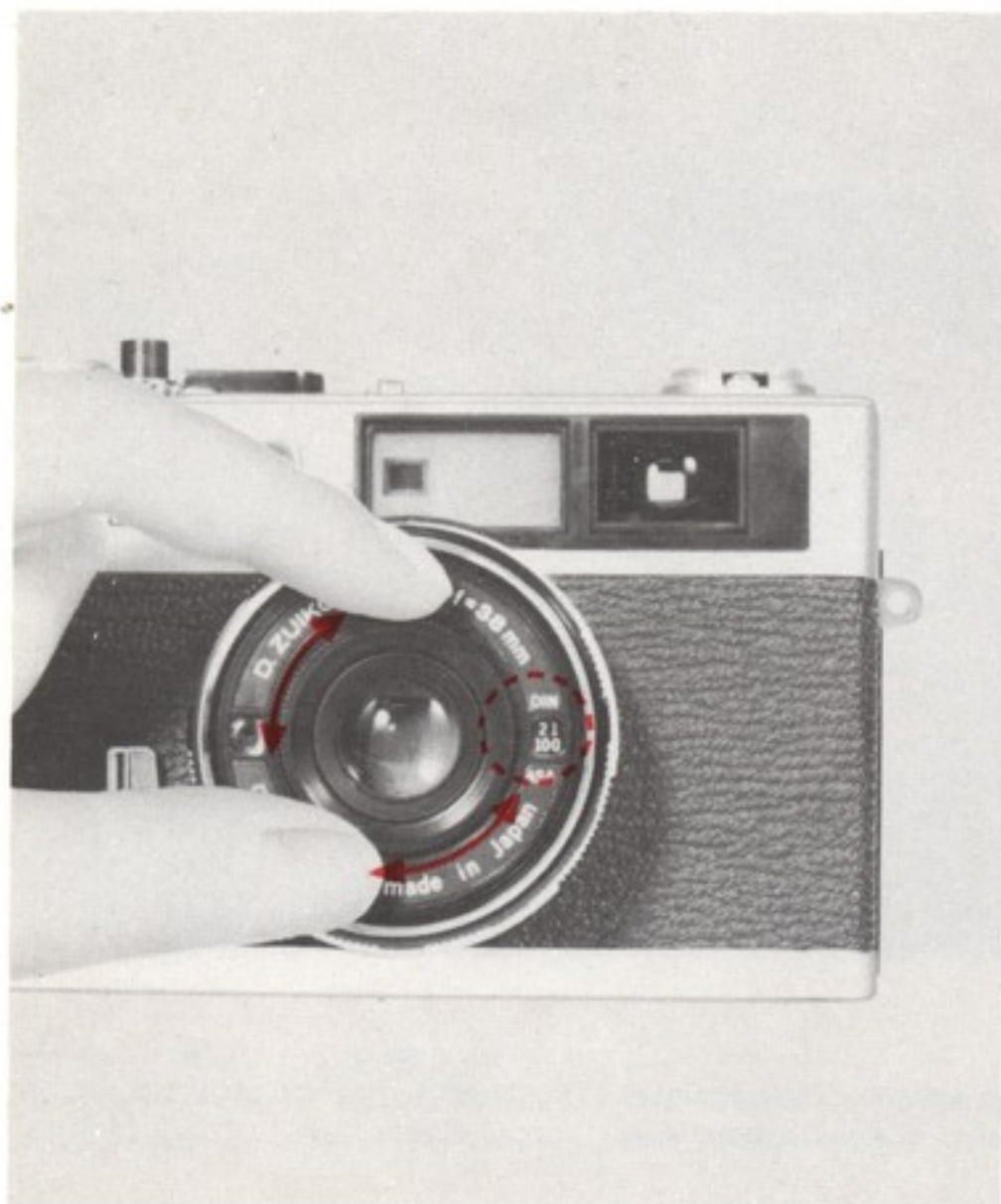
6 フィルム駒数計を1にします。

フィルムを巻上げてレリーズボタンを押す——この空写し操作を2～3回行い、さらに1回巻上げますと、フィルム駒数計は1になります。ここから撮影に入れます。



なお空写しの途中で巻戻しノブが巻上げにつれて回ります。これはフィルムが正しく送られている証拠です。

● フィルム感度セット環



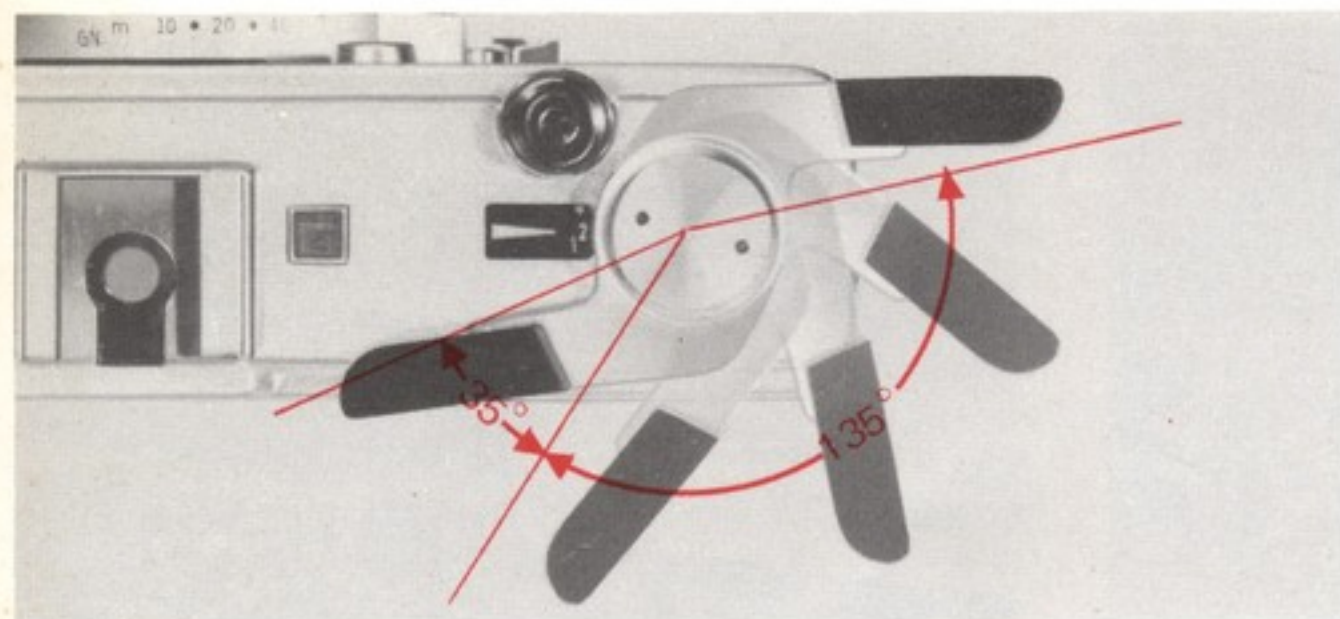
フィルム感度を正しくセットすることが、適正露出を得るための第一の条件です。

鏡胴（レンズ）前側にあるフィルム感度セット環を回し、フィルム感度セット窓に使用するフィルムの感度ができるようにしてください。これがCdS受光部と連動して、受光部へ入る光の量を調節しています。

※フィルム感度は、中間の目盛は使えません。必ずクリックで止まった状態でお使いください。ASA40 (DIN17) このフィルムを使用する場合にはASA32 (DIN16) のところで使用してください。

※ASAおよびDINは、どちらもフィルムが光に感じる度合を示す単位の名称です。フィルム感度の数値を大きくするにつれて、CdS受光部の穴が大きくなりCdSへ入る光の量が調節されています。

● フィルム巻上レバー



1. フィルム巻上レバーを軽く引出します。(予備引出角 35°) 撮影するときは、巻上レバーをこの状態まで引出しておくこと、次の巻上がやりやすくなります。
2. ここから巻上レバーが止まるまで回すと、フィルムが1駒分巻上げられシャッターがセットされます。
巻上操作は何回もの小さきみに分けてできて、使い易いようになっています。

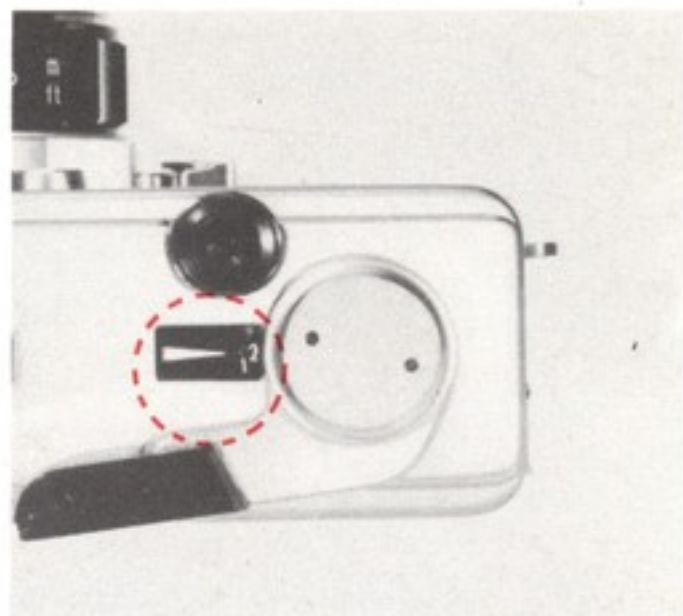
※巻上レバーは必ずストップ位置まで確実に巻上げてください。

3. レリーズボタンを静かに押します。シャッターが切れて再び巻上ができます。

※二重露出防止になっていますから、フィルムが完全に巻上げられていないと、レリーズボタンは押せません。

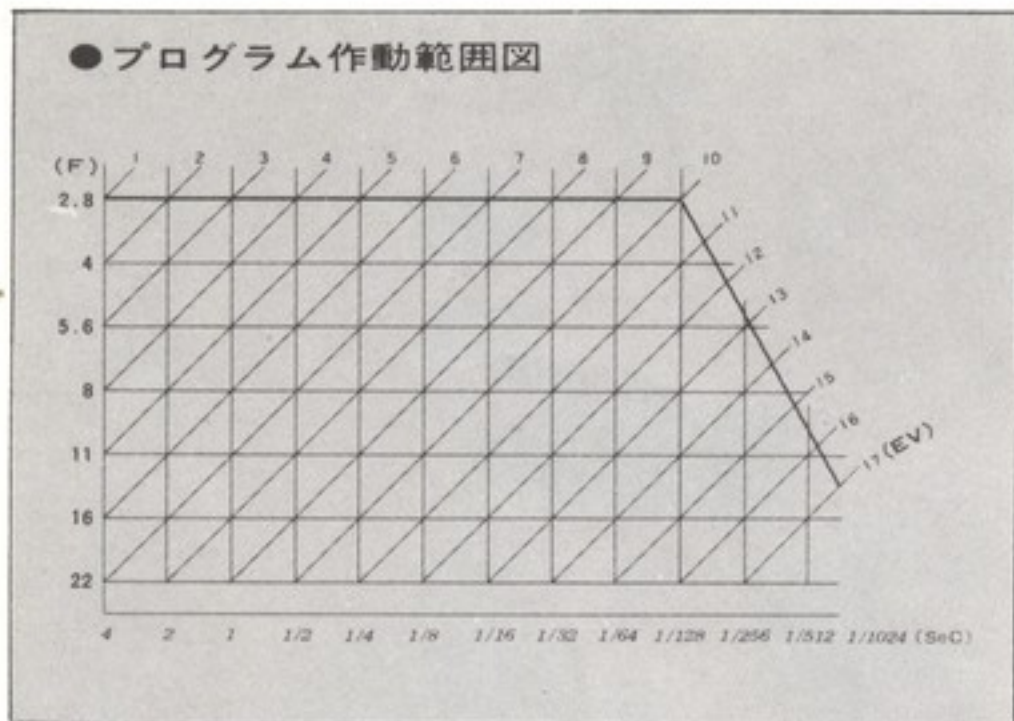
※なお巻上の際巻戻しノブに指を掛けているとフィルムが確実に送られませんのでご注意ください。

● フィルム駒数計



フィルム駒数計には、S(スタート)から36までの数字がS 1 2・4・6と以下偶数で表示されています。このうち市販バトローネ入りフィルムの指定撮影枚数にあたる12、20、36は黄色です。フィルムを巻上げると、1駒分ずつ動きオレンジ色の矢印の先に撮影枚数が示されます。指定枚数の撮影が終ってフィルムを巻戻してから裏蓋をあけると、フィルム駒数計は自動的にSの位置に戻ります。

● 露出

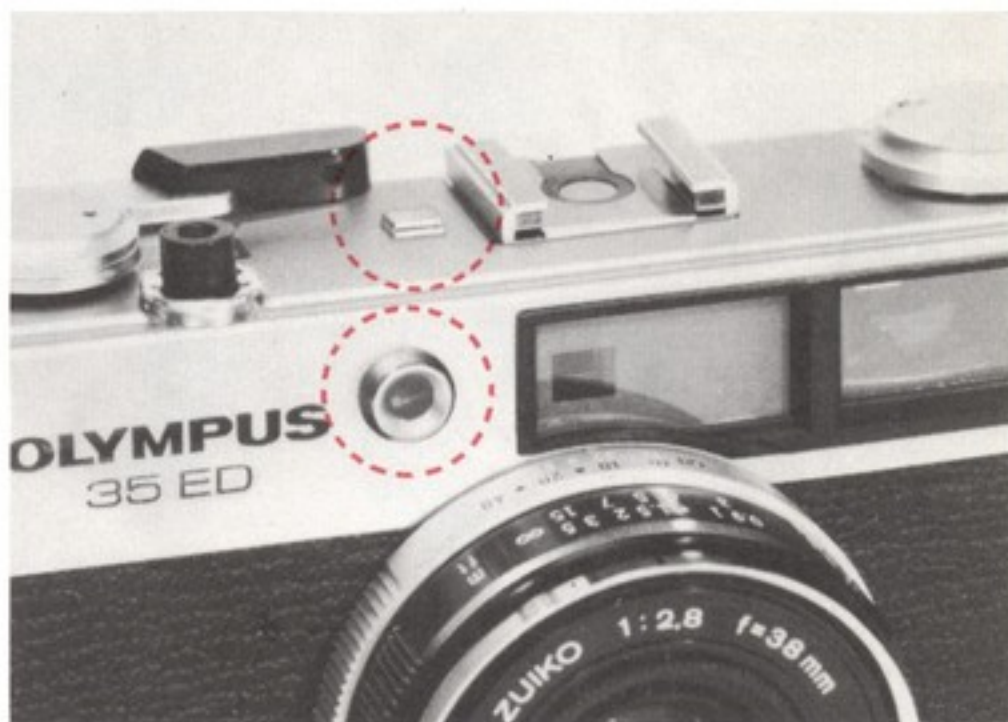


露出はカメラまかせです。

オリンパス35EDは、絞りやシャッタースピードの目盛りがありません。露出決定は、精巧な電子シャッター使用のプログラム式EEの採用により、フィルムを入れたときにそのフィルムの感度を合わせてやるだけで、あとは被写体の明るさに応じて最適の絞りとシャッタースピードの組合せをカメラが自動的に選んでくれます。

※絞りとシャッタースピードの組合せは、上図のようにプログラムされており、EV1(4秒・F2.8)からEV17(1/800秒・F13)までは無段階で、正確かつ広範囲な自動露出が得られます。

● 黄ランプ



〈点灯するとき〉

リリースボタンを少し押しして黄ランプが点灯すれば、電子シャッターが正常に作動することを示しています。すなわちバッテリーチェッカーの役目を果たしており、水銀電池は正常であることを示しています。

〈点灯しない時〉

リリースボタンを少し押しして黄ランプが点灯しないときは、水銀電池を入れ忘れていたり、正しく入れてなかったり（このときはリリースロックがかかりすぐわかります）、または電池が消耗してきていることを示しています。（このときは初めのうちはまだリリースできますが、間もなくリリースできなくなることを示していますので、なるべく早く新しい電池に交換してください。）

〈長時間露出をするとき〉

長時間露出の場合は、押下げたリリースボタンを離すとシャッターが閉じてしまうようになっているため、シャッターが閉じるまで、すなわち黄ランプが消えるまでリリースボタンを押し続けていることが必要です。EVI (ASA100)より暗い被写体で4秒以上の長時間露出を行う場合は、測定範囲外であり露出の精度は保証されません。また更に暗い被写体の場合は、セクターは開放となりバルブ(B)露出と同じ状態（リリースボタンをはなすとセクターが閉じる）となります。

また長時間露出を操返すと電池の消耗が多くなります。30秒以上の長時間露出は行わないようにしてください。テスト的な長時間露出もなるべく避けてください。

●特殊な撮影テクニック

露出はカメラまかせといっても、次のようにEEカメラでは良い結果に写らない特殊な場合があります。

1) 逆光撮影(光源へ向って撮影する)の場合

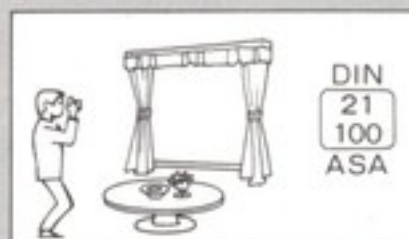


●ASAがそのままですと、人物は黒く陰になってしまいます。



●ASAを半分におとすと、人物がきれいに写ります。

2) 暗い所から明るい所を撮影する場合



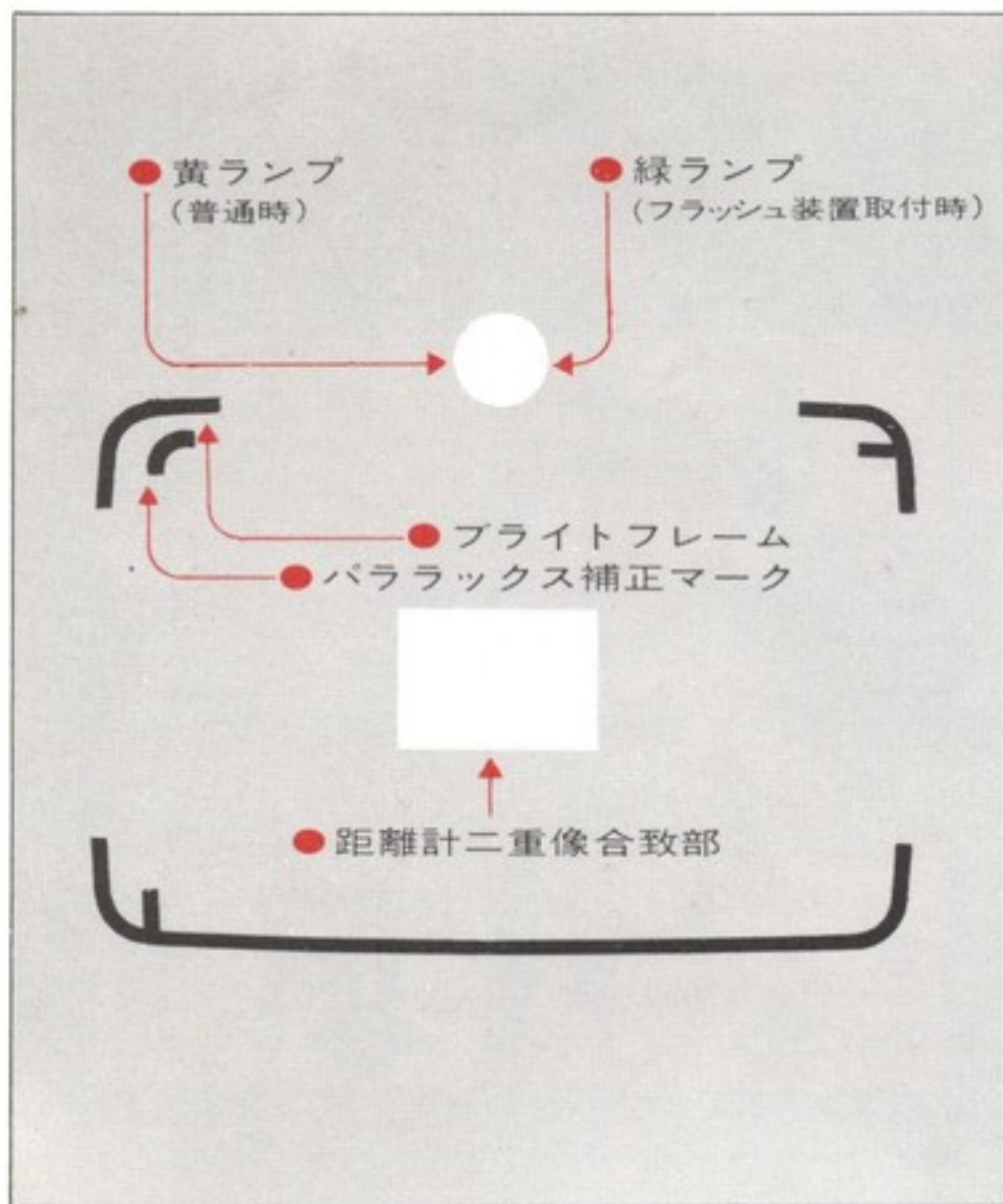
●ASAがそのままですと、部屋の中が写って外景が白っぽくなります。



●ASAを2倍にすると、外景がよく写ります。

〈ご注意〉 これらの撮影が終わったら必ず元の感度目盛に戻しておくことを忘れないでください。

● ファインダー



● ブライトフレームファインダー

ファインダーをのぞいてみると、その周囲に明るい光った枠がみえます。これをブライトフレームといい、この内側に入るものが実際に写ります。撮影のときは、このブライトフレーム内いっぱいに入るようにして構図を決めてください。

● パララックス補正マーク

なお1m以内の近距離撮影のときは、ブライトフレームの内側にあるパララックス(視差)補正マークがかこむ範囲に、写したいものが入るようにします。

● 黄ランプ

カメラ上部にある黄ランプと同じ役目を果します。詳しくは17頁をご参照ください。

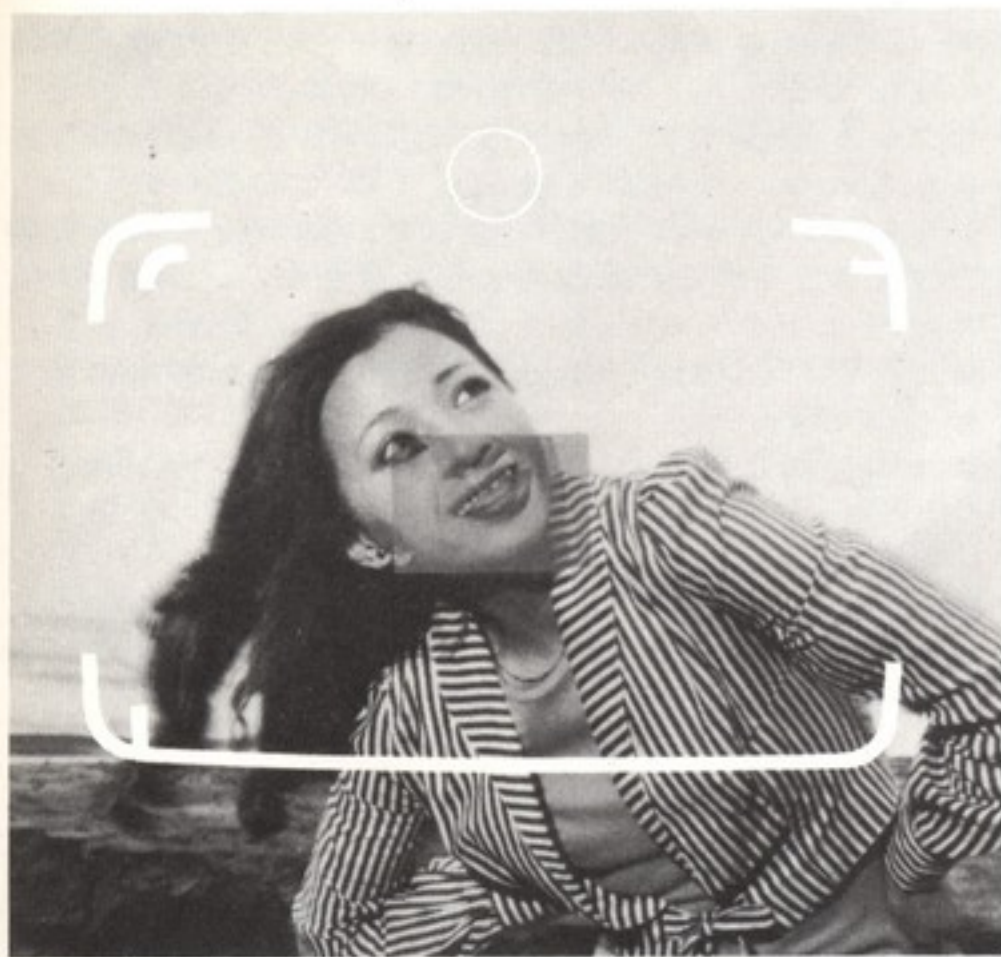
● 緑ランプ

アクセサリシューにフラッシュガンやストロボを取付けてフラッシュ撮影するときは、リリースボタンを押下げていくと、緑ランプが点灯してフラッシュマチックに切換ったことを知らせます。(23頁参照)

● 距離計二重像合致部

次頁参照

●ピントの合わせかた



ファインダー中央の明るい長方形の部分（距離計二重像合致部）でピントを合わせます。ファインダーをのぞきながら、写したい被写体を中央にもってきて距離環を回すと、この部分の二重像がピッタリと合致してハッキリみえるようになります。このとき



がピントの合ったときです。

※距離目盛はm（メートル・白色）とft（フィート・オレンジ色）の両方で刻まれ、中央指標に合ったところが被写体までの距離を表わしています。

● カメラの構えかた



美しい写真を撮るには、カメラをしっかり構えなければなりません。ピントの悪い写真の多くは、カメラブレが原因です。カメラに慣れるまでは、フィルムを入れないで何回も練習してみてください。リリースボタンは、指を立てずに指の腹で静かに押下げます。そのときは指やケースなどが、レンズやCdS受光部にかからないように注意してください。構えかたは、構図によってタテ位置でもヨコ位置でも自由です。

- ヨコ位置に構えるときは、両腕をからだからはなさないようにします。特に左ひじをからだにしっかりつけるとカメラが安定します。
- タテ位置にカメラを構えるときは、右ひじをからだにしっかりつけて、左手でカメラをひたいに押しつけて動かないように保持します。

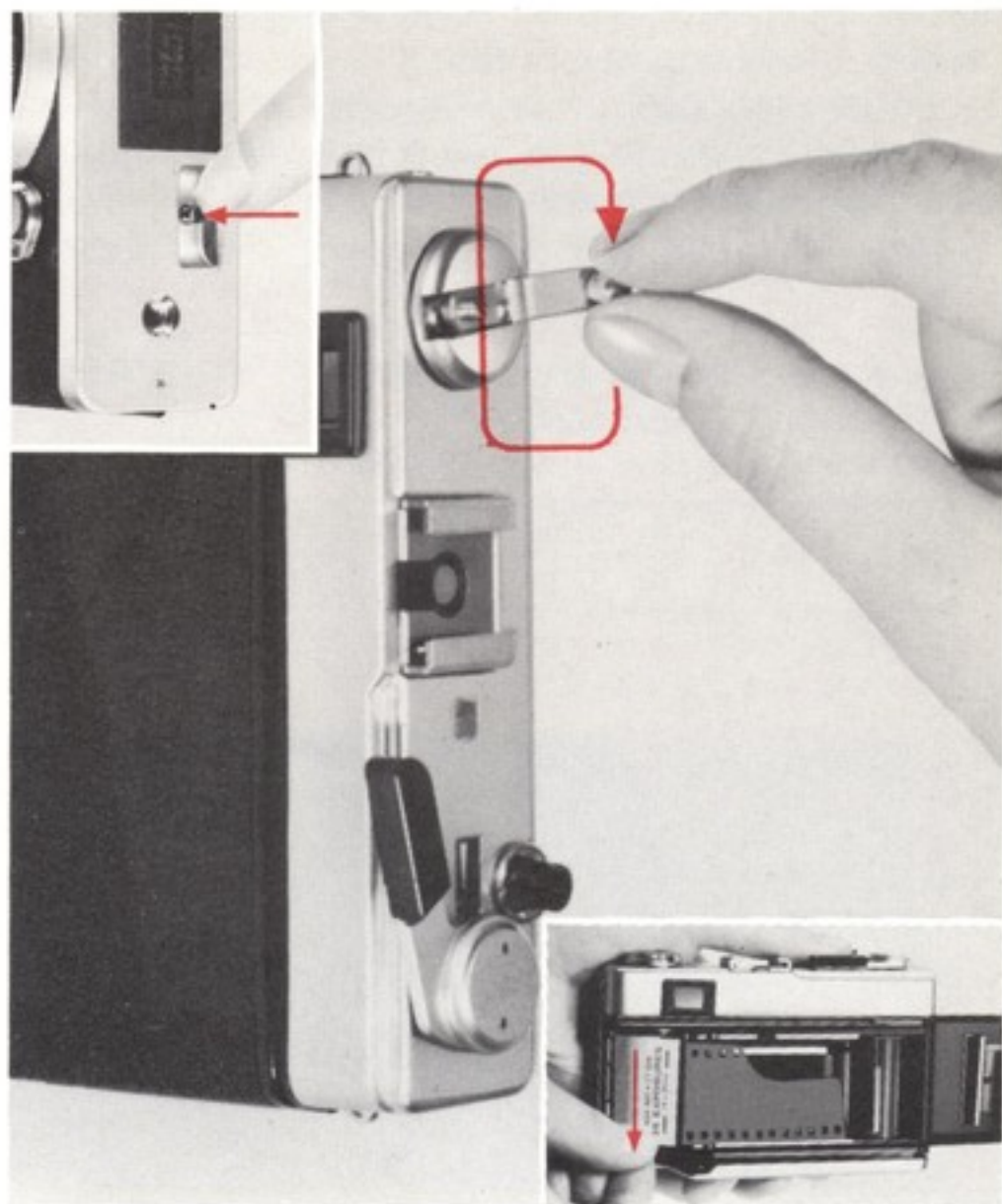


● フィルムの巻戻しかた

撮影が終わったらフィルムを巻戻します。撮影が終わったかどうかは、フィルム駒数計が12（12枚どりフィルム）か20（20枚どり）または36（36枚どり）になったことでわかります。

1. まずカメラ底部にある黒い色の巻戻しボタンを押込みます。一度押込めば、ボタンはそのままロックされます。
2. 次に巻戻しクランクを起こして、クランクの矢印の方向に回してください。フィルムを巻戻している間は、クランクが重く感じられますが、フィルムが巻戻されてスプールからフィルムの先端がはずれると、急に軽くなります。
3. 巻戻しが終わったら、直射日光の当たらないところで裏蓋をあけてフィルムパトローネを取出してください。ひっこんだ巻戻しボタンは、1回以上の巻上操作で元の位置に戻ります。

※なおフィルムが終りになって、巻上レバーが途中で動かなくなることがあります。そのときはフィルムがなくなっていますので、無理に巻上げず、撮影を中止してフィルムを巻戻してください。フィルムが終った状態で無理に巻上げますとパーフォレーションが破れますので、指定撮影枚数を撮り終ったところで必ず巻戻すようにしてください。



● フラッシュ撮影のしかた

暗い所での撮影の場合は、緩速シャッターになりますので、一般にはストロボやフラッシュバルブを使ってフラッシュ撮影した方が良い結果が得られます。この場合、フラッシュマチックシステムを採用しているため、面倒な露出計算がいらす簡単フラッシュ撮影が楽しめます。

※なおフラッシュガンやストロボに取付足のないものは使用できませんのでご注意ください。

1. **ガイドナンバーをセットします。**ガイドナンバー環を回して、使用するストロボやフラッシュバルブのガイドナンバーを、赤指標にセットします。

G N	m	10	(14)	20	(28)	40
	ft	32	(45)	65	(90)	130

※ガイドナンバーは必ずクリックの位置で使ってください。中間の目盛は使えません。



あらかじめ使用するフラッシュ装置が決まっているときには、フィルムを入れたときに合わせておくことが便利です。

オリンパスPS オート100を使用する場合は、ASA 100でGN14 (m) にセットします。この場合ストロボ本体の方は、切換ツマミをマニュアルにしてください。PS200を使用する場合も、ASA 100でGN14(m) にセットします。フラッシュCLでAG-3Bバルブを使用する場合はASA100でGN20 (m) にセットします。

一般のフラッシュ装置を使用する場合は、シャッター速度 $\frac{1}{100}$ 秒のときに使用するフィルム感度によって指定されたバルブのガイドナンバーもしくはそれに最も近いガイドナンバー値をセットします。



● フラッシュマチック連動範囲図

GN \ m	5	3	2	1.5	(1.2)	1	0.9
10							
14							
20							
28							
40							

連動範囲

2. フラッシュ装置を取付けます。

オリンパスPS200やPSオート100やフラッシュCLのようにダイレクトコンタクト付のフラッシュ装置は、アクセサリシューに差込むだけで電氣的接続は完了しています。

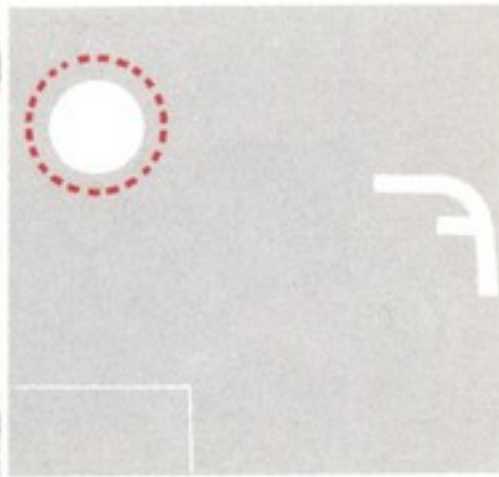
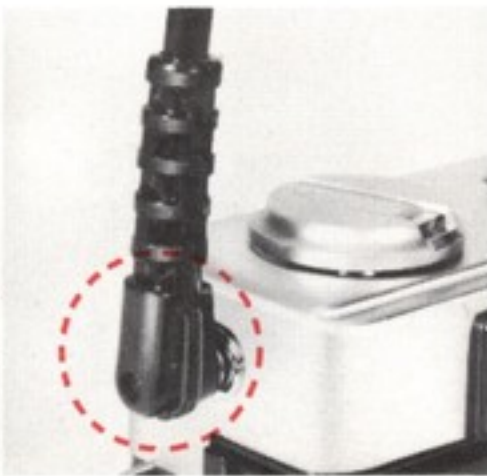
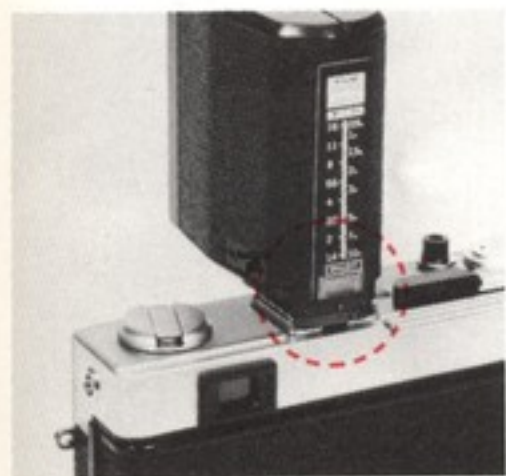
ただしフラッシュ装置の取付足に電気接点のないフラッシュ装置を使用する場合、まずフラッシュ装置の取付足をアクセサリシューに差込みしっかりと固定します。次に接続プラグをシンクロソケットに差し込みます。

3. ピントを合わせます。

オート撮影のときと同様に距離計でピントを合わせます。その撮影距離に応じて自動的に適正なフラッシュ絞りが決まります。その時のシャッタースピードは $\frac{1}{60}$ 秒です。なお、ファインダー内上部では、緑ランプが点灯します。

※フラッシュ装置を取付けてレリーズボタンを押したままでフラッシュバルブを装着しますと、フラッシュが発光して危険ですのでご注意ください。

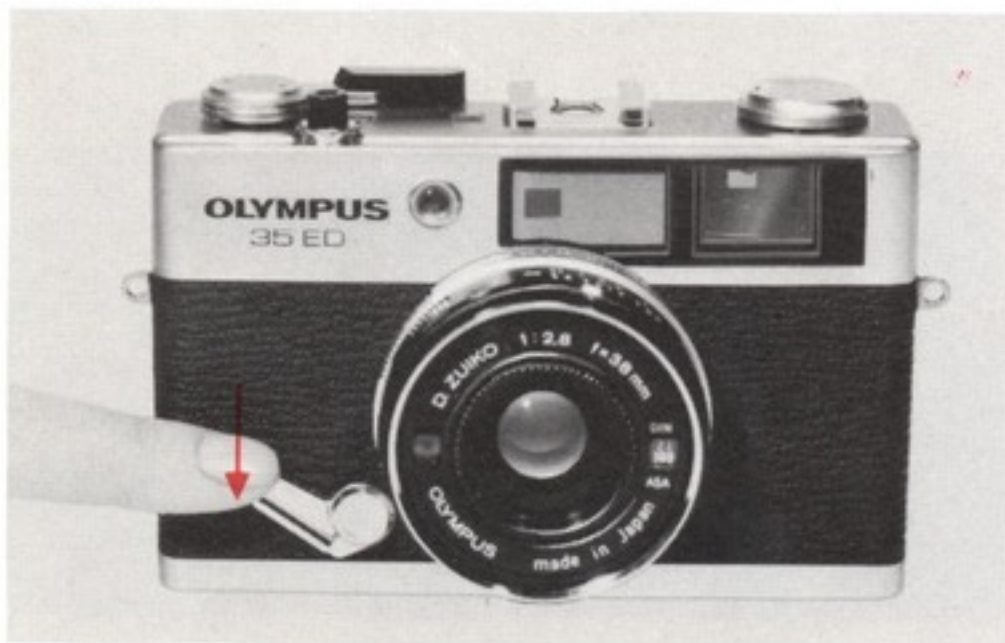
※フラッシュ撮影する時だけ発光器をシューに取りつけて下さい。



● セルフタイマーの使いかた

他人の手を借りずに、ご自分の記念撮影ができる便利なセルフタイマーが内蔵されています。グループでの撮影などにご自分も加わった楽しい思い出がたくさん残せます。セルフタイマーが作動している間、カメラ前面のランプが点灯しつづけますので、離れていてもすぐにわかります。撮影が完了するとランプは消えます。

1. セルフタイマーレバーを写真のように下に約90°とまるまで倒し、セットします。
2. フィルムが確実に巻上げてあるかどうかを確認します。



3. レリーズボタンを押すとセルフタイマーが作動し約10秒後にシャッターが切れます。

レリーズボタンはセルフタイマーが作動するまで押してください。

- セルフタイマーレバーのセットは、フィルム巻上の前後いずれでもかまいません。
- フィルムが巻上げられていなかったり、電池がなかったりすると、レリーズがロックされますのでセルフタイマーも作動しません。



● カメラ保管上のご注意

- カメラの大敵はホコリと湿気です。できるだけ乾燥した空気の流通のよいところに保管してください。そのときシャッターやセルフタイマーは必ず切っておきます。
- カメラは精密機械です。落したり、大きな衝撃を与えないようにしてください。また高温(50°以上)の場所に長く放置することは避けましょう。低温(-15°C以下)で使用するときには、正規の作動をしないことがありますので、カメラを暖めてから使用してください。
- カメラをラジオ・テレビ・その他強い磁石のそばには、長く置かないようにしてください。
- レンズなどの光学部分には、指をふれないように注意しましょう。もし指をふれてしまったら、すぐ清潔なノリのついていない木綿布でふいてください。そのままにしておくと、指紋などがとれなくなってしまう。
- 海岸で撮影したあとはカメラの表面を柔らかい布で良く拭き、塩分などがついたままにしないでください。
- カメラを長期間ご使用にならないときは、水銀電池を取りだして保管してください。次に使用するときには水銀電池の表面を乾燥した清潔な布でよく拭いた上、正しく水銀電池室に入れます。
- カメラの具合が悪い場合は、すぐ最寄りのオリンパスサービスステーションにお持ちください。

● アクセサリー



● フィルター

オリンパス35EDには、43.5mmのねじ込み式を使います。35EDの受光部は、鏡胴の正面にありますので、フィルターの露出倍数を補正する必要はありません。またI Aフィルターは白黒フィルムを使っても差支えありませんので、レンズ保護を兼ねて常用することをおすすめします。

■ フィルターの種類と性質

白黒用	U	V	有害な紫外線をカットして、鮮明な画をつくります。またレンズの保護用として、常時使用できます。
	Y	2	青空を暗くし白い雲をくっきり浮き出させるなど明暗の描写が強調され、立体感ができます。
カラー用	I	A	UV同様有害な紫外線をカットし、青味がかかった画調になるのを防ぎます。またレンズ保護用としても使えます。
	81 C	(曇天用)	曇天または雨天で撮影するとき用いると、青味がかかった色にならずに写ります。
	82 C	(朝夕用)	朝や夕方など赤い光の多い時間に撮影するとき用いると、黄赤味がかかった色にならずに写ります。
共用	N	D 4 ×	光の量を $\frac{1}{4}$ にします。カラー・白黒フィルム共に使用出来ます。



● フード

レンズの画角以外から入る有害な光線を防ぎます。逆光や半逆光などの撮影の場合に必ずお使いください。携帯のときは、逆さにするとレンズの鏡胴にスッポリかぶさりますので、そのままカメラのケースに納まります。



● オリンパスフラッシュCL
(コードレス)
AG-3Bのタイプバルブを使うコード不要の世界最小のフラッシュガンです。



- **オリンパスPS200** ● **オリンパスPS200クイック**
超小型軽量ストロボで、アクセサリシューに差込むだけで電氣的に接続します。縦位置専用でコンパクトカメラにとりつけたときのバランスと使いやすさは抜群です。アルカリ乾電池2本(PS200)・4本(PS200クイック)の電源専用で、200回以上発光します。
おもな性能＝●ガイドナンバー：14 (m) (ASA100) カラー・白黒共通 ●発光間隔：アルカリ乾電池 (AM-3・新電池) PS 200 7秒、PS200クイック2.5秒 ●色温度：デイトカラーフィルムに最適 ●大きさ・重量：PS200 31×55×64mm・75g (本体のみ)、PS200クイック32×73×71mm・95g (本体のみ)



- **オリンパスPSオート100**
小さくて軽く使い易いと3拍子揃ったオートストロボです。コードレス接点付アクセサリシューに差込むだけで、電氣的に接続します。アルカリ乾電池2本の電源で200回発光します。オートとマニュアルの切換えレバーがついています。35EDはフラッシュマチックですのでマニュアルで使用してください。
おもな性能＝●ガイドナンバー：16 (m) ASA100、カラー・モノクロ共通 ●オート作動範囲：0.5～4m(ASA100、F4・F5.6の二段切換) ●色温度：約6000°K ●発光間隔：オート・マニュアル共8秒、アルカリ乾電池 (AM-3 新電池) ●大きさ・重量：86×67×29mm、135g (本体のみ)

● オリンパス製品紹介



● オリンパスOM-1

「大きい、重い、音・ショックが大きい」という一眼レフの三大欠陥を取りのぞき、本格的システムカメラの分野に機動性をもたらした画期的一眼レフです。新しいファインダー交換方式、モータードライブ取付可能(下板交換調整にて使用)、ズイコー交換レンズ・クローズアップフォト・マクロフォト・フォトミクロなどの充実したシステムユニット、10万回の耐久性などの高性能を備えた本格的システムカメラです。

■おもな性能

●レンズ：オリンパスOMマウント、バヨネット交換式(回転角70°) ●シャッター：フォーカルプレーンシャッター、マウントダイヤル式、B、1-1/1000秒 ●ファインダー：ペンダプリズム式広視野ファインダー、フォーカシングスクリーン交換可能、露出計測光表示付 ●ファインダー視野率：実画面に対して97% ●ミラー：大型ミラー、ミラーアップ可能 ●露出計：TTL開放測光式中央重点測光、ファインダー内定点合わせ式 ●裏蓋：標準裏蓋蝶番式 ●モーター巻上：下板交換(有償)によりモータードライブ仕様にして使用、専用モーターユニット着脱式、最高連続巻上毎秒5駒 ●大きさ：F1.8付/136×83×81mm ●重さ：660g



●ズイコーパールコーダーR

Yシャツの胸ポケットに入る超小型のカセット式テープレコーダーです。通勤・通学途中の語学学習に、会議・商談・講演・取材など生きた情報キャッチに開発された高性能・軽量カセットレコーダーです。語学を始めとする各種学習にソフトテープも豊富に用意されています。

●123×67×28mmの超小型・250g ●高性能コンデンサーマイク内蔵で確実な録音 ●単3乾電池2本で約3時間使用可能 ●数万回におよぶ使用テスト済 ●キュー、レビュー、早送り、巻戻しの4操作ワンタッチのシフトボタン式 ●録音時間往復60分の超小型マイクロカセット。郵送も20円でOK!



●MIC

(小中学生用生物顕微鏡)
小・中学生のために特別に設計された本格的顕微鏡です。倍率も300倍までありますから教課過程で充分使えます。
●倍率：ノブの回転による4段階切替40×・75×・150×・300× ●鏡筒：固定傾斜(45°)鏡筒、ステージ上下動式焦点調節、ステージストッパー付 ●理科振興法指定・JIS規格一級品



●ST-III(実習用顕微鏡)

伝統的なスタイルの高性能顕微鏡です。操作がし易く、安定した状態で使えます。
●倍率：70×～600×、対物レンズ(10×、40×)接眼レンズ(7×、15×) ●鏡筒：単眼固定、上下動式焦点調節、焦準ストッパー付レボルバー2個用 ●ミラー：凹平面鏡付(簡易照明装置LSK取付可能)



●HS

ST-IIIのハイクラスにあたる顕微鏡です。
●倍率：〔I型〕28～600×、対物レンズ4・10・40×、接眼レンズ7・15×。〔II型〕70～900×、対物レンズ10・20・60×、接眼レンズ7・15×。
●鏡筒：単眼固定鏡筒。上下動式焦点調節。粗動・微動可能。焦準ストッパー付。レボルバー3個用。 ●コンデンサー：単玉レンズ、虹彩絞り付。 ●ミラー：凹面鏡付(簡易照明装置LSK取付可能)

海外にお出かけの方に

万一旅行の途中で、カメラに事故が発生した場合は、各国にサービスステーションがありますからお尋ねください。リストは、東京営業所にご請求いただければ、お送りいたします。

オリンパス光学工業株式会社

国内オリンパス・サービス・ステーション所在地 ※日曜・祭日および土曜日は原則として休みます。

東京	151. 東京都渋谷区幡ヶ谷2の43の2	オリンパス光学工業(株)本社内	電話(377) 2111
	101. 東京都千代田区神田小川町3の7	オリンパス商事(株)東京本店内	電話(294) 4411
名古屋	460. 名古屋市中区錦3の23の31 栄町ビル	オリンパス商事(株)名古屋支店内	電話(961) 0531
大阪	542. 大阪市南区塩町通り3の45	オリンパス大阪センター内	電話(252) 6981
福岡	810. 福岡市中央区天神1の14の1 日本生命ビル	オリンパス商事(株)福岡支店内	電話(761) 4466
札幌	060. 札幌市中央区北3条西4丁目 日本生命ビル	オリンパス商事(株)札幌営業所内	電話(231) 2320
広島	730. 広島市八丁堀16の11 日本生命第2ビル	オリンパス商事(株)広島営業所内	電話(28) 3821
仙台	980. 仙台市中央1の2の3 駅前第1ビル	オリンパス商事(株)仙台営業所内	電話(25) 6821
金沢	920. 金沢市尾山町3の25 住友生命金沢ビル	オリンパス商事(株)金沢営業所内	電話(62) 8257
横浜	220. 横浜市西区北幸1の7の2 横浜駅西口ビル	オリンパス商事(株)横浜営業所内	電話(311) 2041
新潟	950. 新潟市東大通り1の4の1 マルタケビル	オリンパス商事(株)新潟営業所内	電話(45) 7337
静岡	420. 静岡市追手町1の6 日本生命ビル	オリンパス商事(株)静岡営業所内	電話(53) 2135

海外オリンパス・サービス・ステーション所在地

U. S. A. OLYMPUS CORP. OF AMERICA, 2 Nevada Drive New Hyde Park, N. Y. 11040
GERMANY OLYMPUS OPTICAL CO. (EUROPA) GmbH, Steindamm 105, 2 Hamburg 1

あなたのカメラナンバーを控えておきましょう。

No. _____